

FreeBSDで完全冗長化された Network Filesystemを

2016/02/18

許 先明

FreeBSDで完全冗長化された Network Filesystemを

作れなかつた記録

2016/02/18

許 先明

お品書き

- 📌 Motivation
- 📌 Implement
- 📌 Problems

Confidential

Motivation

なんで？

- 📌 Mail Serverなどに供給するFilesystemは安定性と冗長性が重要
 - 📌 一般にFilesystemの冗長化は非常に難しい
 - 📌 Freeに利用できる良い実装はない。
 - 📌 MailServerを構築する場合
 - 📌 Lock問題への対応
 - 📌 Maildirを利用しHome Directoryに
 - 📌 ファイル単位で
 - 📌 受信したメールを保存する
 - 📌 SMTP Serverは冗長性を確保したい
 - 📌 Mail spoolの冗長化を考えると Network Filesystemを利用したくなる
- 📌 負荷分散を考える必要があるシステムで、コンテンツを共有する必要があるものには、常に存在する

どうやって？

Linux系(CentOS/Ubuntu…)

- DRBD : Disk単位(Block Device単位)での同期
 - Block DeviceとしてのHDDを同期
- Isyncd/rsync : ファイル単位での同期
 - Linux kernelのinotifyを利用したファイルの書き換え検出(Isyncd)
 - 検出されたファイルの同期(rsync)
 - Symbolic Linkの取り扱いに難がある (というのはなしをきいた)

FreeBSD系

- HAST : Disk単位(Block Device単位)での同期

その他

- 知らない。NetBSDとOpenBSDには、このような実装はないと思われ

FreeBSDでHAST?

- 📌 やっぱり運用するなら(慣れているし)*BSDだよね
- 📌 HASTしかないんだけど。しかもFreeBSD系だけなんだけど。
 - 📌 やっている人すくなそう。情報も少ないぞ
 - 📌 NAS4FreeとかFreeNASとか
 - 📌 どうせExperimentalだし
 - 📌 GUIから(全部は)設定できないし
 - 📌 情報少ないし

Implement

Install

📌 VMの諸元

📌 CPU: 仮想CPU 1個

📌 Memory: 1024MB (UFSを利用するのでこのくらいでいい)

📌 HDD: 仮想HDD 20G + 仮想HDD 100G

📌 NIC: 仮想NIC x2

📌 詳しい記事は以下を参照

📌 <http://www.seirios.org/seirios/dokuwiki/doku.php?id=os:freebsd:hast>

📌 使った技術 . . . w

📌 HAST · CARP · devd · NFS

📌 CARPのStateがMASTERになったらHASTのroleをPrimaryにするためにdevd

memo

📌 FreeBSD 10系におけるdevd.conf(CARP部分だけ)の例

```
notify 100 {  
    match "system" "CARP";  
    match "subsystem" "[0-9]+@[0-9a-z]+";  
    match "type" "(MASTER|BACKUP|INIT)";  
    action "/usr/local/sbin/carp-hast-switch $subsystem $type";  
};
```

📌 要するに、CARPのStateが変化したら、actionに記載されたコマンドを実行する。



📌 その時、引数に、I/F名と状態を渡す

これで、Stateが変化した時に、hastの挙動を変化させるためのscriptを呼び出せる。

Problems

さて本題

問題点は

-  FreeBSDがBootする際の挙動
-  NFSが(この用途には)使えない

Boot時の挙動問題

📌 起動時の挙動(必要部分だけ)

1.devdを起動

devdがNIC設定より前に起動される

→NIC設定(CARP設定)時にscriptが呼ばれる orz..

2.NICを設定

3.rpc関連を起動

4.NFS Client関連の起動

hastdが起動された時にはすでにNICは設定済み

5.hastd起動

→scriptは呼ばれない

→結果、hastd起動後にroleを設定できない

6.NFS Server関連の起動

hastdがprimaryになっていないのにExport

→されるはずがない

Boot時の挙動問題(解決策)

- 📌 システム起動に関しては手をつけない
 - 📌 rc.confとかrc.conf.localとかでFakeするのは、保守上ダメ
- 📌 対応策(案)
 - 📌 carp-hast-switchをいじる
 - 📌 hastdの起動状態の確認を行う（起動してなければ何もしないようにする）
 - 📌 /etc/rc.localで、最後にcarp-hast-switchを呼び出す
 - 📌 CARP Stateの確認が必要

再起動問題さえなければ、現状でちゃんとHASTは動いています。

しかも、かなり安定しています。

HASTを止めてmountすれば、ちゃんとFilesystemとして見えます。

でも、ここをちゃんとしないと、**SplitBrain**になります

NFSが使えない -1-

📌 使えそうなNetwork File Systemはあるか？

📌 FreeBSDで使えそうなものはほとんどない。

📌 ClientにCentOS/Ubuntu/NetBSD/OpenBSDがあるので、そもそも制限がきつい

📌 実質NFSだけじゃね？、あえて言うならSAMBA???(嫌～)

📌 NFS : Network File System

📌 NFS: RFC1094 (1989/03)

📌 NFS version 3: RFC 1813 (1995/06)

📌 NFS version 4: RFC 3530 (2003/04)

📌 RFC3010(Obsolete): (2000/12)

📌 つまるところ、古い…

NFSが使えない -2-

📌 いや、普通に使う分には使えます。

📌 NFS v4は認証関係でもものすごく面倒そうだったので2035年問題があるのを承知で NFSv3にしました

📌 別に普通にNFS鯖立てて、NFS暗蟻作れば普通にFilesystem共有できますよ。

駄菓子菓子

📌 完全冗長にはできなかつたのです。

NFSが使えない -3-

- 📍 NFS ServerはNFSでの接続ポイントをCARPで供給している
 - 📍 NFS ServerのIPアドレスをNs1/Ns2とし、NFSのアドレスをNsCとする
 - 📍 NFS ClientをNcとする
 - 📍 初期状態では、Ns1がNsCを持っていて、NcがNFS mountしているとする

📍 問題発生の流れ

1. Ns1がshutdown
2. NsCがNs2に移り、Ns2はHAST Primaryになり、NFS関連が起動する
3. NcはNsCを通じてNs2のStorageにアクセスしようとする
4. いつまでたってもアクセスできず、はまる

NFSが使えない -4-

- 📌 なにが起こっているのか？
 - 📌 NFSでFilesystemを公開しているのはmountd
 - 📌 mountdは、NFS Clientを記録している
 - 📌 /var/db/mountdtabにClientのIP Addressを記録している
 - 📌 NFS Server #1と#2は、当然、HASTのVolumeしか同期していない
 - 📌 したがって、当然mountdtabにはClientのIP Addressは記録されていない
- 📌 結論
 - 📌 NFS Server#2はNFS Clientからの接続を認めない！orz..

NFSが使えない -5-

- 📌 まず、そもそものArchitectureを考え直す
 - 📌 HASTは、Filesystemの完全な同期だから、NFS Client側のinode cacheに対して耐性があるはず
 - 📌 耐性があるなら、NFSのCacheは忘れてもなんとかなるか..
- 📌 じゃあ、どうすりゃいいのよ？
 - 📌 まあ、取り急ぎで言うなら、/var/db/mountdtabを同期する手を考える
 - 📌 でもどうしよう？rsync?ないよなあ。
 - 📌 HAST???? 動く気がしないでもないが、えーと...
 - 📌 automountで凌ぐ？
 - 📌 動く気がしない…。いや、動いてくれそうな気もするんだけど...
- 📌 何らかの知恵求む